



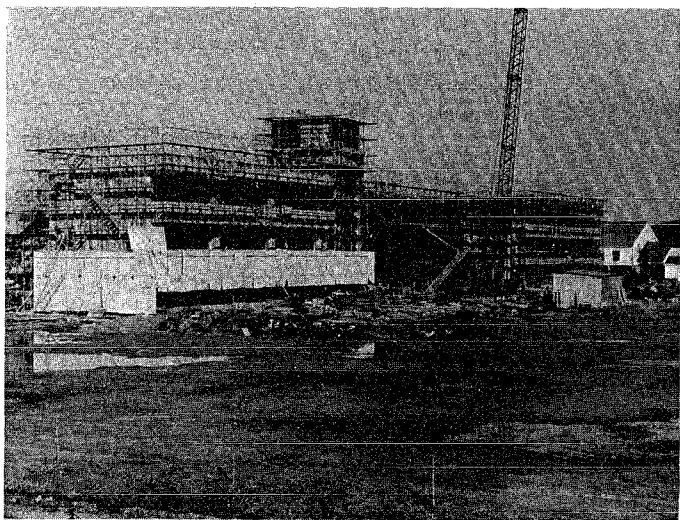
長 町 田 善

# 教育費を重点に 可能な限り町民

一、小須戸小学校建設事業  
昨年着工いたしました小須戸小学校の建設事業は、工事も順調に進み、本年度は工事費の六〇％額として四億五千五百六十四千円を計上するほか、グラウンド整備工事費三千五百万円を含め、合計四億九千七百八十六万三千円を予算計上いたしました。人間性豊かな児童生徒の育成をめざし、児童を一日も早く、よりよい教育環境に受け入れるため、六十一年度事業として計画しております。屋内体育館も本年度中に着工し、何としても六十一年九月には完成の上、開校したい所存であります。

二、地方行革の推進について  
本町では、かねてより組織、機構の簡素合理化等行政改革の推進には鋭意努めてきたところであり、近年地方公共団体のとりまく社会経済情勢、財政事情は依然としてきびしい状況にあり、この状況下で多様化する行政需要に対応しつつ、住民福祉の増進を図るには、引き続き住民参加による行政改革を推進することが強く求められております。このような事情にかんがみ本年八月末を目前に地方行革大綱を策定するため行革推進委員会の設置条例を提案申し上げたところであります。

三、納税意識の昂揚と振替納税の推進について  
明るく住みよい町づくりと健全な町政運営の基盤をなすものは、民主的な租税制度と完全な納税の履行であります。本町ではよりよい納税制度として去る昭和五十三年以来、口座振替制度の充実強化に努めてまいりましたが、この制度の一層の理解と普及啓蒙のため「振替納税推進の町」宣言を行い、これを契



## 昭和六十年度主要案件について

四、使用料、手数料の改正について  
最近における物価の増大、各種証明等に要する費用の増大、特に公共施設の目的外使用等の事情を十分考慮に入れ、使用料、手数料を見直した結果、六十一年四月から改正することになりました。特に町営住宅使用料につきましては、昭和三十八年以來据置いてまいりましたが諸物価の推移、他市町村との均衡維持管理費の増高等により改正することといたしました。入居者の生計費に及ぼす影響を考慮するとき、誠に心苦しいものがありますが過去二十二年使用料を据置いたこと等も勘案の上、止むを得ない措置としてご理解を賜りたいと存じます。

五、行政運営の健全化について  
自主財源の乏しい本町では、ますますきびしい財政状況に対処するため極力経常経費の節減と、行政の改革、効率化に努め

今後とも貴重な財源を住民の生活、福祉の向上に役立てるべく努力する考えであります。そのため、重点事業については、町づくり基本構想に基づき総合計画を骨子として予算化する一方、昭和五十九年度末には小須戸小学校建設基金として合計一億四千三百五十万円を積立てるほか、今後とも公共下水道や山の手運動公園等公共事業に備え、更に公債費の増額が見込まれますので、出来る限り財政調整基金等の財源確保に努める所存であります。以上、施政の方針と新年度における主要案件について申し述べましたが、従来から実施されてまいりました諸制度、諸施策につきましては、一層これを充実発展させ、住みよい町づくりを推進いたしますので格段のご協力を賜りますよう、重ねてお願い申しあげ所信の一端に替えさせていただきます。

# 生活の向上を



## 町長の施政方針

昭和六十年度の方針を決める三月十一日招集され、新年度予算をはじめ行政運営に必要な条例案等を審議して三月十八日に閉会しました。第一日目に町長から昭和六十年度における施政方針として、予算編成、主な主要案件について説明がありました。三月議会では、各種使用料、手数料関係の議案（P7）を含め四十八議案が審議され可決されましたが、今月号では町長の施政方針のすべてと、昭和六十年度の予算概要特別職の報酬、使用料、手数料の改正内容についてお知らせいたします。

## 予算編成について

昭和六十年度予算を提案するにあたり、町政執行の基本方針と町財政の現状、及び重点施策を申しあげ議会並びに町民各位の深いご理解とご協力をお願い申しあげます。

町民生活の安定と住民福祉の向上に誠心誠意努力してまいりました。幸い、町議会をはじめ町民各位のご支援とご協力並びに町職員の方によりまして、健全財政を維持しつつ、町勢の伸展に寄与できましたことは誠に有難く、関係各位に対し、深

く感謝申し上げる次第であります。今後とも清潔にして明るい町政を推進し、住民の期待と信頼に応える所存でありますので、議会をはじめ、町民各位の一層のご支援をお願い申し上げます。地方財政を取りまく昨今の情勢はますますきびしくなっており、国、地方を通じて大巾な収支不均衡が生じ、特に本年度からは国の財政危機からくる公共事業を中心とする高率補助の一律削減や財源対策債の発行停止

など国庫依存度が高く、自主財源に乏しい本町にとりましては、きびしい予算編成となりました。昭和六十年度予算の編成にあたりましては、このような財政事情を十分認識し、経常経費を極力圧縮しながら町民福祉の向上と、教育費を重点に可能な限り積極的予算を編成いたしました。財源の関係で町民の皆様の要望を予算に盛り込めないものもありますが何分のご理解とご協力をお願い申し上げます。

昭和六十年度一般会計予算総額は二十四億七千五百四十九万九千九百九十九円と前年度から継続工事として本年度の重点施策であり、小須戸小学校の建設予算が四億九千七百八十六万三千円、中学校大規模改修工事費七千万円、を盛り込んだ結果、教育費

の総額が八億八百五十七万八千円となり、前年の五億六千五百二十八万五千円に比し、大中増になったのが主な要因であります。歳入の内訳を大別しますと、自主財源が三六・七％で九億八百七十一万二千円となり、依存財源が六三・三％の十五億六千六百二十八万八千円に依然として自主財源に乏しい財政力となっております。一方、歳出面では人件費が二〇・八％で五億一千三百八十四万円以下総額に占める割合は、行政費が二四・三％、投資的経費が三六・五％、公債費が一〇％、その他が八・四％となり、歳出総額は二十四億七千五百四十九万九千九百九十九円となっており、年々公債費比率が上昇しつつありますことは、今後の健全財政を維持するため何となく抑制に努め、万全を期したい所存であります。